



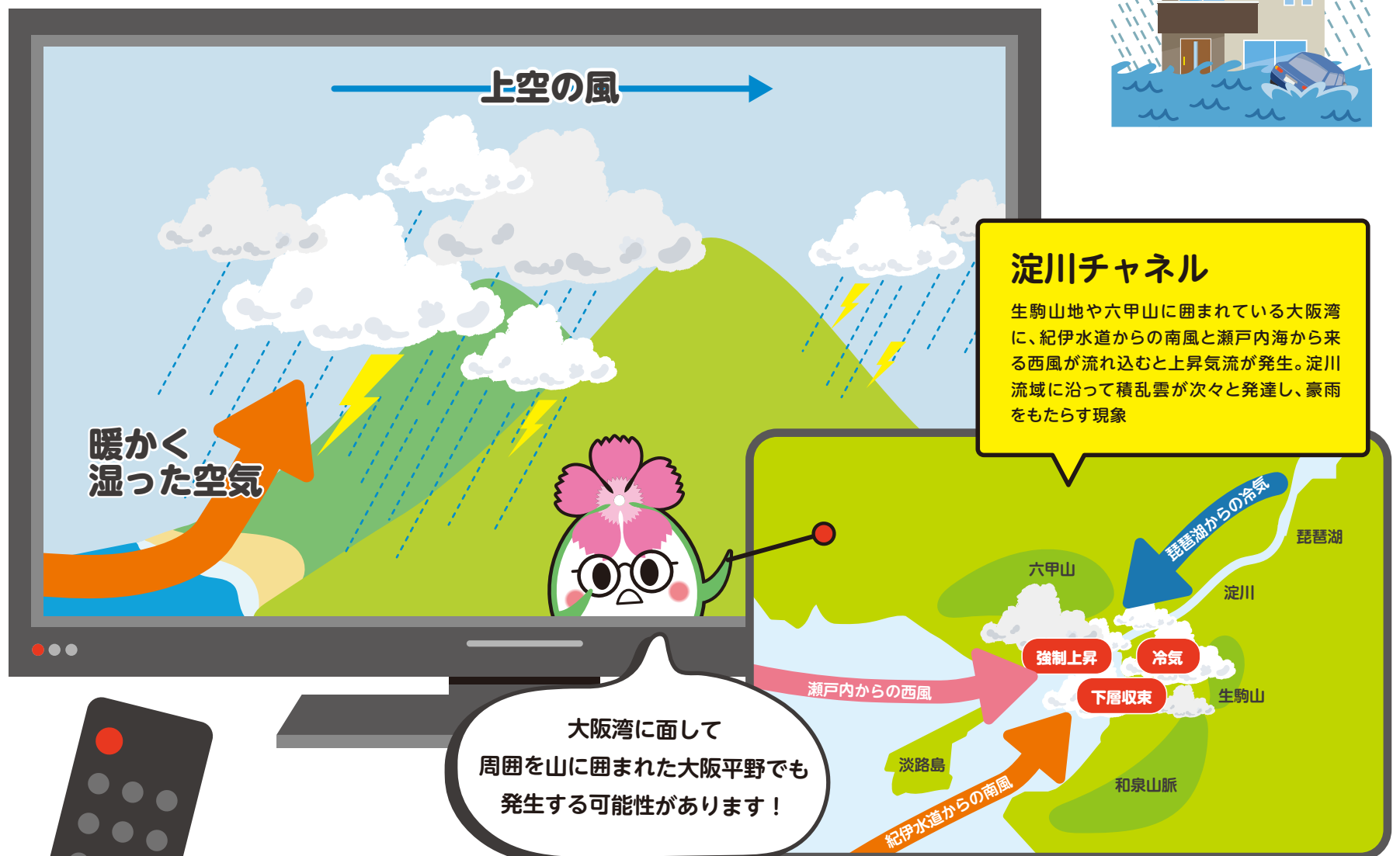
大雨の備え できていますか？



6月～10月は出水期と呼ばれ、大雨や台風等による水害が多くなる季節です。特に近年、梅雨の末期には**線状降水帯**が多く発生し、各地で甚大な被害をもたらしています。日ごろから大雨に対する準備をして、いざという時には適切な行動をとれるよう心掛けましょう。

線状降水帯とは...

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することにより、降水帯が細長い線状に連なって見える状況のことで、このエリアではバケツをひっくり返したような激しい雨が降っています。



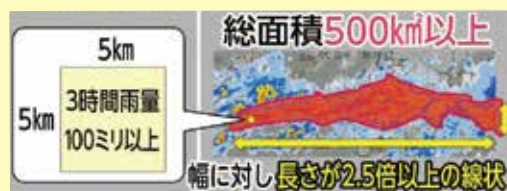
線状降水帯が発生したら...

気象庁では2021年(令和3年)6月17日より警戒レベル4相当以上の状況において、補足情報として「**顕著な大雨に関する情報**」を発表しています。その際に「線状降水帯」というキーワードを使って解説されることになっています。しかしながらその時点ですでに線状降水帯が発生していることから行動には細心の注意を払う必要があります。

～大まかな発表基準～

- 1 解析雨量(5kmメッシュ)において3時間積算降水量が100ミリ以上の面積が500km²以上
- 2 雨域の形状が線
- 3 3時間積算降水量の最大値が150ミリ以上
- 4 大雨警報または洪水警報の危険度分布で一定基準を超過

線状降水帯の発生を正確に予測することはとても難しい...



顕著な大雨に関する情報の例



〇〇地方では『線状降水帯』による非常に激しい雨が降っています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています!

気象庁
ホームページは
こちら

